

炭酸二カリウム産業の現状

令和8年6月23日
関税・外国為替等審議会
関税分科会特殊関税部会
経済産業省

炭酸二カリウムの概要

炭酸二カリウムとは

- 炭酸二カリウムは、無機化学薬品として広範な製品に使用され、白い粉末状、顆粒（固形品）又は水に溶解させた無色の液体品がある。
- 塩化カリウム（KCl）を溶解した水（ H_2O ）を電気分解すると、水酸化カリウム※及び塩素、水素が発生。その水酸化カリウム水溶液を炭酸ガス（ CO_2 ）と反応させると炭酸二カリウムが生産される。
- 炭酸二カリウムの国内生産者はAGC1社。

（※水酸化カリウムについても、平成28年に不当廉売関税課税措置が発動。令和7年12月から、同措置の延長調査を実施中）

【炭酸二カリウムの外観（固形品）】



（写真提供：AGC（株））

炭酸二カリウムの主な用途

- 炭酸二カリウムは、ガラス原料に投入すると溶融性を高めると共に、透明性や光沢性等を高める効果があるため、高精細な高い品質レベルが要求される液晶パネル用のガラス基板など、高付加価値ガラス製造の原料として使用される。
- そのほか、中華麺に添加するかんすいの原料、チタン酸カリウム（主に自動車用のブレーキパットの原料）の原料、衣料用洗剤・食器用洗剤の原料、カリウム塩類の原料、医農薬の中間体原料など。

【液晶パネル用ガラス基板】



（写真提供：AGC（株））

炭酸二カリウム産業の現状等

- 炭酸二カリウムの主な生産国は、韓国、米国、台湾等。
- 炭酸二カリウムは幅広い用途に用いられる基礎化学品であり、国内の産業基盤を支えている。
- 令和3年に不当廉売関税が課税後も、関税を加味した韓国品の価格は、関税が賦課されていない第三国品の価格と近似しており、関税賦課後もなお、韓国の供給者は継続して価格競争力を維持。
- その結果、韓国産炭酸二カリウムの輸入量は増加傾向であり、輸入量は、令和2年の4,248トンから令和6年には5,053トンに増加、国内需要量に占める市場占拠率も拡大。
- これらにより採算が悪化する中、令和4年に日本曹達が国内産業から撤退。AGCが国内で唯一の生産者となり、国内生産量は調査対象期間を通じて42パーセント減少した。結果として国内市場の輸入依存度は拡大。
- 現在もなお、韓国産品を引き合いとした追加的な値下げ要求や、販売量減少に至った例が確認される等、国内産業は脆弱な状況にある。
- 課税期間が満了した場合には、さらなる低価格輸出を通じて、国内産業に必要な炭酸二カリウムを輸入品に大きく依存する状況となるおそれがあり、その結果、韓国からの輸入による価格支配が生じるおそれがあるほか、川下産業を含むサプライチェーン全体に悪影響を及ぼすおそれがある。